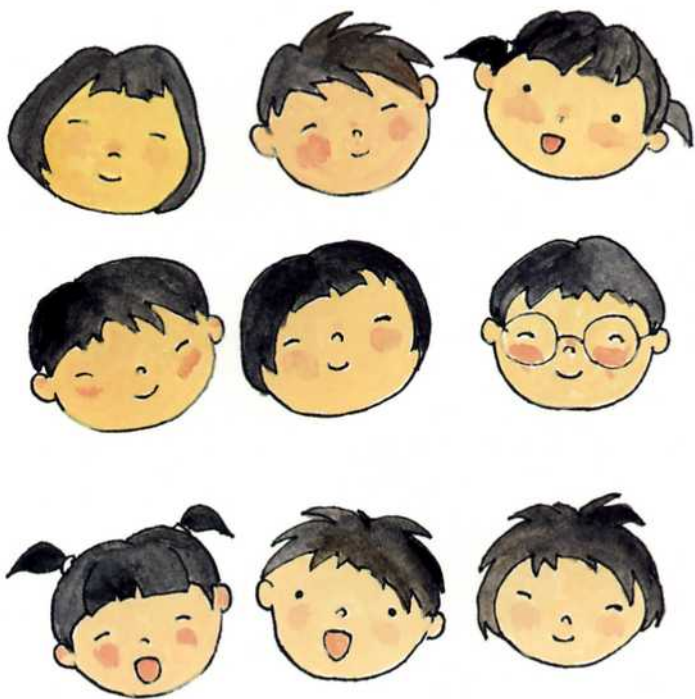


「優しさ」という ビタミン愛

パート3





ボクは、遠足が大好きです。
遠足の1週間ぐらい前になると、もうワクワクドキドキ。
そして行く前の最大の楽しみは、
おやつを買いに行くことです。
200円のおやつを買うのに、悩みに悩みまくります。
時には、1円でも安い隣町のお店へも遠征します。
前の日の夜は、いつもなかなか寝付けませんでした。
あー楽しかったなあ。

でも遠足の次の日は大嫌いでした。
だって、学校に行くと先生は
昨日の遠足の作文をかきなさい、絵をかきなさい
しっかり思い出してかきなさい、
って必ず言うんだから……。
ボクは、次の遠足がどこかな？って考えたかったのになあ。

子どもって、「過去」と「未来」のどちらが大切なんだろうね。
それは、きっと「未来」なんだろう。
それにひきかえ、大人は「過去」と「未来」のどちらを大切に
考えているかっていうと「過去」なのかもしれません。
点数、成績、学歴、成功、失敗、過ち、肩書き……
大人になると「過去」にこだわって、
なかなか「未来」を向けないことも多いような気がします。
もちろん「過去」も大切です。
でも「未来」は、もっと大切だと思います。
人が「未来」を向く時、
瞳は、子どものようにキラキラと輝くのですから……。

「あした」と「きのう」

子どもと先生の会話です。

「せんせい、「あした」って なにかしってる？」

「『明日』ねえ、なんだろうねえ」

「『あした』ってねえ、

「たのしみだなあ」って思うことやねん」

「ふーん、そうなんだあ」

「せんせい、じゃ『きのう』は なにかしってる？」

「『昨日』ねえ、なんだろうねえ」

「『きのう』はねえ、

「よかったなあ」っておもうことやねん」



小学1年生「あのね帳」から

お風呂

ゆうすけ

先生あのね

ぼくが ひとりでお風呂にはいると

おゆは ちょっとしかふえないよ

でもおとうさんといっしょにはいると

おゆが あふれるんだよ

それが とってもうれしいんだ



ぬくかったから

まゆこ

先生あのね

わたしはいつも

おかあさんに本をよんでもらってからねるよ

でもきのう おかあさんが さきにねました

あさおきて

「なんで」

ってきくと

「まゆこが、ぬくかったから」っていいました



101回目の合唱

運動会が終わり、
今度は音楽会にむけて練習が始まりました。
このクラスでは、子どもたちが話し合って
音楽会までに100回練習することになりました。
朝夕はもちろん、あいている時間を見つけては、
みんなで歌いました。
家に帰ってからは、お風呂でも練習です。

そんな生き生きした娘の姿をみて、
お母さんは音楽会をとっても楽しみにしていました。

ところが、音楽会の2日前にお母さんは急に体調を崩し、
寝込んでしまいました。

音楽会当日の朝、点滴を打ちながらお母さんは
「本当にごめんね、見に行けなくて。」

しっかり歌っておいで」

「うん。お母さんもがんばってね」

そんな親子の会話が交わされました。

数日後、参観日がありました。

その朝、担任の先生から電話がありました。

「お母さん、今日の参観日は10分早く来て下さいね」

お母さんが10分前に教室に着くと、
子どもたちが整列して待っていてくれました。
そして代表の子が
「有紀ちゃんのお母さん。
今から101回目の合唱をします。どうぞ聴いてください」



この日の算数の授業中、
ハンカチを握りしめるお母さんの頭の中には
何度も何度もあの歌が流れていました。

朝のウォーキング

朝6時、新聞を取りに出ると、
ウォーキング姿の太田さんと出会います。
「おはようございます」
「今朝は少し冷えますね」
そんな会話を毎朝交わします。

たまに会わない日もあります。
すると翌日は
「お元気ですか？」
「ちょっと風邪ひきまして・・・」
そんな会話になります。

ある時、7時に新聞を取りにいきました。
今度はウォーキング帰りの太田さんと出会いました。
「おはようございます」
「今日はいい天気になりそうですよ」
そう話す太田さんの手には
ゴミがいっぱい入った白い袋がありました。

すがすがしい朝の始まりでした。

温かい心

今日は2学期の個人懇談会。
私は仕事の都合で、懇談時間は午後7時半。
外はもう真っ暗、冷たい北風も吹いています。
そんな中、校門をくぐると息子の教室の電気だけがついています。
(先生、ごめんなさい・・・)

私は、少し遠慮がちに教室に入ると、先生は笑顔で
「お母さん、こっちです」
仕事のあと、疲れているのにごめんね、
さあ、ここに座ってください」
(私こそ、長い間待たせてごめんなさい)

そして、椅子に座ったとたん、私は思わず、
机の下を覗き込みました。
(あったか〜い)
あーそこには、なんと小さな温風ヒーターが
私の方を向いておいてあったのです。

(ありがとう、先生)

わったん

わったんは、ちょっと算数の苦手な6年生。

ある日、下校途中で突然雨が降ってきました。

わったんは、走り出しました。

途中で濡れている1年生を見つけると、

わったんは、自分のジャンパーを頭からかけてやり、

また走り出しました。

家庭科で調理実習をしました。

今日の献立は、チャーハンです。

1週間後、わったんの弟が作文に書きました。

「ぼくの兄ちゃんのチャーハンは、とてもおいしいです」

修学旅行に行きました。

おこづかいは3000円。

みんな楽しくお土産を買っていました。

でもわったんは2000円しか使いません。

「オレの父さん、入院してるから1000円おいとくねん」

それから5年後、

わったんのお父さんが亡くなりました。

遺影を見て、ドキッ。

あまりにもわったんとそっくりだったのです。

わったんは

今も、とっても優しい青年です。

わったん二世も、元気でかわいい小学生。

きっと天国から

お父さんが見守ってくれているのでしょう。



僕の「西宮の思い出」

僕はもうすぐ30歳、今東京に住んでいます。
西宮には小学校の4年生まで住んでいました。
僕の家を近くを新幹線が通っていましたが、
まわりには、まだ田んぼがいっぱいあるところでした。
春には田んぼでオタマジャクシ採りに夢中になったり、
サッカーをしていて、
田植えの済んだ田んぼにボールを入れてしまい、
ひどく怒られたこともありました。
でも、毎日、外で友だちと遊ぶのが一番の楽しみでした。

そして、突然の引っ越し。
お別れ会で、僕はずっと我慢してたけど、
最後にクラスの歌を歌う時、とうとう泣いてしまいました。

東京に行く日、僕はお父さんに頼んで、
新幹線には新神戸から乗ることになりました。
最後にもう一度学校を見たかったからです。
新神戸を出て10分程。トンネルを出ると僕の学校が見えます。
僕は目を大きく開けて一生懸命に学校を見ました。
すると、そこには

運動場で大きく手を振っているたくさんの人の姿が
目に入ってきました。

先生もいます、しんちゃんもかつちゃんも田中君もいます。
クラス全員で僕の新幹線に手を振ってくれているのです。
思わず僕も大きく手を振りました。

横で一緒に見ていたお父さんが
「よかったなあ」って肩をだいてくれました。
一生忘れられない僕の「西宮の思い出」です。



校長先生の白いズボン

今日は小学校の運動会。

でもあいにくの天気です。

いつ雨が降り出してもおかしくない空模様でした。

午前の部が終わりました。雨はまだ降っていません。

午後の演技が始まった頃

とうとう雨が落ちてきました。でも演技は続きます。

少しずつ運動場がぬかるんできました。

あとひとつ・・・

最後のプログラム、6年生の「組体操」が始まりました。

ぬかるんだ土に寝ころび、泥だらけになって

一生懸命にがんばる子どもたちに大きな拍手が送られます。

いよいよ最後のタワーです。

5人の上に3人、その上に1人が乗り、

そしてみんなが立つのです。

泥で足がすべりそうです、危なっかしい様子です。

その時、

テントの中から、腰をかがめてスルスルと出ていく人がいます。

校長先生です。

そしてタワーのそばから、

しゃがんで子どもたちの演技を見つめました。



「ピッーーーー」

大成功です。

客席から大きな拍手がわきました。

そばでは、笑顔で大きな拍手をする校長先生がいました。

校長先生の白いズボンもその時、泥で真っ黒でした。

人間のいい者順に一例に並べ！

卒業前の6年生の教室で起こった出来事です。

先生が、突然

「このクラス35人いるけど今から、

『人間のいい者順に一例に並べ！』

と言いました。

「誰が一番いい人間や、誰が一番悪い人間や、言うてみろ！」

そんな突然の先生の呼びかけに子どもたちは反発します。

だって先生は今まで、人間はそれぞれの個性があって、

それぞれのいい所や悪い所があって、けっして順位は

つけられない、と口をすっぱくして言い続けていたからでした。

でも、先生は『人間のいい者順に一例に並べ』と言い続けます。

おかしいことを言う先生と子どもたちの言い合いは、続いていき

ましたが、あまりにしつこい先生の態度に、これは何か変だと

気づいた子どもたちは

「先生は職員室に戻ってて！あとは私たちだけで考えるから」

と先生を教室から追い出してしまいました。

そこから子どもたちの白熱の議論が始まりました。

考えに考えぬきました。

1時間後、日番の子が先生を呼びに行きました。そして教室に

戻ってきた先生に子どもたちはその答えを見せたのです。

子どもたちは、教室の机といすをうしろにし、教室の前を広くして、

そこで、男女が交互になって、中を向いて、

一つの輪になっていたのです。先生はその輪の中に入り、

「よく考えたな、これが正解や。こうやって一つの輪になると、

全員の顔が見えるだろ。うれしそうな顔をしている友達がいれば

一緒に喜べるし、悲しそうな顔をしている友達がいれば、

そばに行って声をかけてあげることができるだろ。

こうやって輪になれば、人間はつながっていけるんだよ。

これからの人生、苦しいこともあるだろうけど、人間はこうやって

輪になっていけば、それを乗り越えていくことができるんだよ」

そう言って先生は涙を流したあと、笑顔で全員と握手をしました。

最高の「笑顔の輪」が、そこにできました。



※文中の名前等はすべて仮名です。



人権文化の花咲くまち 西宮をめざして 7

平成18年(2006年)3月
西宮市・西宮市教育委員会

文・仲 島 正 教
画・中 西 徹